

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

78

地域包括ケアシステム構築のための仕組みの一つとして、地域の多様な活動者が集まり、地域の情報交換や話し合いをする諏訪市協議体が、諏訪市総合福祉センターにて開催されました。

令和5年度は「免許返納後の移動手段について」をテーマに開催され、地域公共交通についての情報提供者という立場で参加させていただきました。意見交換ではかりんちゃんバスに期待する声が多く挙げられる反面、現状に対する課題も多く挙げられました。中でも「時刻表がわかりにくい」など、利用方法のわかりづらさがかりんちゃんバスの利用を敬遠する要因となっているようです。これは、住民需要に因應するために、路線の新設や延伸を繰り返した結果、時刻表が複雑化してしまったことが起因しています。ただ、それは裏



を返すとかりんちゃんバスは市内全域を細やかに網羅しているとも言えます。元々、かりんちゃんバスは高齢者の移動の足を目的として、市民の要望に答えて発足した交通網です。高齢者にも乗りやすい車両として、住宅地と商業施設・公共施設・医療機関などをつないでいます。

令和6年3月から1か月間、高齢者を対象にライフドアすわと諏訪市社会福祉協議会、諏訪市が共同で「かりんちゃんバス無料乗車

は せ が わ か ず き
長谷川 一樹

諏訪市地域戦略・男女
共同参画課地域戦略係

事前レクチャーの様子



また、体験乗車を終えた方に、免許返納後の移動手段の予定についてアンケートしたところ、回答者の88%の方が「バスの利用を考えている」との回答をいただきました。かりんちゃんバスはうまく使いこなせれば、楽しく便利に「高齢者の移動の足」としてご利用いただけますので、利用方法にご不明点がある方はお気軽にお問い合わせください。

今後予想される高齢者の増加に備えて、免許返納後の移動の足に困らないよう公共交通の充実がさらに大切になります。令和6年10月からは新たな公共交通である、AIオンデマンド交通「チョイソコかりんちゃん」のテスト運行が開始します。今までのような決まった路線や時間で運行するのではなく、利用者の予約に応じてAIが最適な経路を選択して運行する乗合型のバスです。乗降場所は霧ヶ峰・有賀峠方面を除く市内全てのバス停のうち、乗降するバス停を自由に選ぶことができ、利用者の希望に近い時間に運行します。チョイソコかりんちゃん導入により、諏訪市の交通はより便利になります。

いざ車が運転できなくなるときに困らないよう、外出方法の選択肢を増やしておくことは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしをする上で大切です。諏訪市地域公共交通がその一助になれば幸いです。

今回は8月11日掲載予定

免許返納後の移動の足を考える

〜かりんちゃんバス無料乗車体験企画〜

体験企画を実施しました。企画では協議内容を反映し、乗車体験をする前に乗車方法と時刻表の見方を中心とする事前レクチャーを実施しました。参加者数は16組41名と短い期間でしたが多くの方に

ご参加いただきました。

参加者の中には、実際に免許返納をした又は予定している方もいれば、体験を通じて免許返納しても困らないか検証するという方もいました。レクチャー前は参加者に不安の表情が伺えましたが、いざ乗車体験が終わると「遠足気分が楽しかった」「次は自分たちだけで計画して乗車してみたい」「乗務員が親切「生活に必要な場所が網羅されていた」など前向きな感想を多くいただきました。